創作郷土芸能

まほろば囃子の練習 いよいよ佳境に

篠笛（竹笛）の澄んだ音色に大太鼓の勇壮な響き、それに典雅な締太鼓と歯切れのよい鉦が加わって、今郷土の芸能「まほろば囃子」のけいこは佳境に入っています。「まほろば」とは、秀でたよいところという意味の古語。つまり土佐で最も早く文化の華が開いた郷土の歴史と風土をテーマに、日本の代表的民俗芸能「祭り囃子」を創作している真っ最中なのです。メンバーは「まほろば囃子振興会」の会員四十人。既に曲を構成する一部の楽章も出来上がり、練習も急ピッチ。来春の披露を目指して頑張っています。ご期待を!!

文化復興へ 意気上がる

古代から近世へかけては土佐の政治、文化の中心地だった南国市も、現在はすべての面で高知市に依存する通過型外沿都市。都市機能は不十分で、文化的にも固有のものがありません。

せめて南国市らしい自前の文化が欲しい。潤いのある街をつくりたい。そんな願いから郷土芸能づくりが始まりました。

「まほろば囃子振興会」が結成され、活動を始めたのが今年七月。来春の発表へ向けてメンバーは頑張っています。

この小さな芽吹きが多様な文化運動、街づくり運動へと発展していくとき、郷土南国市も大いに変わることでしょう。

再来年は市政施行三十周年。都市の骨格面では急速に整備が進む南国市。だがこの骨格にどんなに肉付けし、どんな風格の街をつくるかは、市政担当者のみならず市民一人一人の考えるべき課題です。

今、メンバーは文化復興運動に情熱を燃やしているのです。

軽快に打ち鳴るおはやし

典雅な〝祭り囃子〟が

この「お囃子」の特徴は、打楽器だけの演奏と違い、笛がメロディーを担当し重要な役割を果たします。ところがこの笛が難物で簡単には鳴ってくれません。

しかし、七月以来の苦労のかいあって、〝ピーヒャラリー〟という優雅な音色が出せるメンバーも増え、特注の太鼓、鉦もそろったので十月からけいこも本格化。現在、オリジナルに懸命に取り組んでいます。

それにしても上達も急ピッチ。「まほろば」の語感そのまま、まろやかで典雅な民俗芸能「祭り囃子」ができそうです。

この「まほろば囃子」は、最終的にはいくつかの楽章で構成される組曲になる予定です。郷土の歴史や風土がどんな曲に表現されるのか楽しみです。

正式の発表会は来春の予定。こうご期待を。

市民の皆さんのご協力を

郷土に自前の文化を創造したいという熱い願いが実りつつありますが、やはり問題は資金づくり。

見積もりでは六百万円程度必要ですが、そのうち百五十万円は市補助金、そしてその他の大部分は募金で賄う予定です。

振興会では、既に市内の有力な企業、団体に要請して好意ある返事をいただいていますが、これだけではまだ不足しており、広く市民の皆さんにご協力を呼びかけています。

また、会員の募集も含めて行っています。左記までご連絡ください。

市役所（☎63-2111）
企画財政課（内線207）
産業経済課（内線221）
社会教育課（内線314）